

「子ども110番の家」 対応マニュアル



警察へは **110番** 救急のときは **119番**
最寄の 小学校 (—)
最寄の 交番 (—)

※ 最寄の小学校及び交番の連絡先は、事前に確認のうえご記入ください

長浜市防犯自治会
長浜市市民活躍課

「子ども110番の家」

「子ども110番の家」とは

子どもが「声かけや痴漢、つきまとい」など、何らかの被害にあった、またはあいそうになり助けを求めてきたときに、その子どもを保護するとともに、警察、学校、家庭などへ連絡するなどして、地域ぐるみで子どもたちの安全を守っていくボランティア活動です。

活動の内容

- ◎ 犯罪等の被害にあい、またはあいそうになって助けを求めてきた子ども等の保護
- ◎ 事件・事故の発生を認知したときの110番通報、学校、家庭への連絡
- ◎ 日常生活のなかで、近所に子どもたちが被害にあいそうな危険な箇所等を発見した場合の連絡
- ◎ 子どもの安全に関するボランティアとの連携

活動上の留意事項

- ◎ 子どものプライバシーを尊重し、秘密を守ってください。駆け込んできた子どもがたとえ顔見知りであっても、その内容を安易に近所の人に話すことのないように注意してください。
- ◎ 子どもの立場に立った思いやりのある対応を心がけてください。
- ◎ 自分で犯人（不審者）に立ち向かおうなどという無理な活動は、決してしないようにしてください。

その他

- ◎ コーンの破損、登録内容に変更が生じた場合、やむを得ず廃止される場合は、居住地の小学校等へご連絡ください。



子どもが駆け込んできたときの対応

子どもが助けを求めてきたら、まず家の中に入れて保護してください。

①

まず自分が落ち着く話を聞く側があわてたり興奮したりしないよう、まず自分が落ち着いて子どもの話を聞いてあげましょう。

②

子どもを落ち着かせる「もう大丈夫」などやさしく声をかけ、子どもを落ち着かせてあげることが大切です。

③



子どもから話を聞く

裏面の聞きとりメモを利用して、子どもから話を聞いてください

「話を聞くときのポイント」

- ・ 静かな場所で話を聞く（落ち着いた雰囲気をつくる）
 - ・ 椅子にかけさせるなどして子どもと同じ目線で話す
 - ・ 子どもの体調に気を配る（気分が悪くないか、けがをしていないか等）
 - ・ 子どもの判断の参考となるような具体的な例を挙げて尋ねる
 - ・ 無理に答えを聞かない（わからないことを何度も尋ねない）
- ※ 緊急の場合は、まず110番通報をした後に話を聞いてください

④



110番通報する

「子ども110番の家」であることを告げ、あなたの住所、店名、氏名等を伝えてから聞き取り内容を順序よく話してください。

⑤



警察等が到着するまで待つ

110番通報により、できるだけ早く近くのパトカーや警察官が駆けつけますので、家の中で子どもを待たせてください。警察官が到着したら、事情を説明してください。

聞き取りメモ

① 何があったか

- ・連れ去り (腕をひっぱる、車に乗せようとする等)
- ・わいせつ (体に触れる、抱きつく等)
- ・声かけ (お菓子や物を買ってあげる、遊びに行こうと言う等)
- ・つきまとい (追いかける、立ちふさがる等)
- ・その他 ()

② いつ

時 分頃

③ どこで

場 所：
目 標 物：

④ 犯人（不審者）は

男・女 () 人 年齢 () 才くらい
身長 () cmくらい 体格 (肥満・ふつう・痩せ)
服 装 上 () 下 ()
その他特徴 (メガネ、サングラス、ヒゲ、マスク、その他 ())
逃走手段 (徒歩 ・ 自転車 ・ オートバイ ・ 車)
車のタイプ () 色 () ナンバー ()
その他車の特徴 (ドアの数 (2ドア、4ドア) ハンドルの位置 (右・左))
逃走方向 ()

⑤ 子どもは

住 所：
氏 名：
学校名：
電話番号：
小・中・高 年

車種

軽自動車



トラック



セダン



クーペ



ステーションワゴン



ワゴン/SUV



ミニバン



色

